

平成29年度
田上町教育に関する事務の
点検及び評価報告書

平成30年9月
田上町教育委員会

目 次

1. 学校教育環境の整備		
教育方針の計画的な展開	総合評価：A (100)	P 1
家庭や地域との連携	総合評価：A (85.0)	P 2
教育環境の整備	総合評価：A (85.0)	P 3
2. 教育内容の充実		
学ぶ意欲と確かな学力の向上	総合評価：A (85.0)	P 6
創意工夫を生かした教育活動の充実	総合評価：A (81.2)	P 7
いじめ、不登校に対応した指導体制	総合評価：A (91.6)	P 8
特別支援教育の充実	総合評価：A (100)	P 9
3. 生涯学習の条件整備		
生涯学習推進体制の強化	総合評価：A (87.5)	P 11
指導者・指導体制の充実	総合評価：C (50.0)	P 12
施設整備	総合評価：A (100)	P 13
4. 主体的な学習活動の支援		
学習機会の充実	総合評価：A (86.3)	P 14
主体的な活動への支援	総合評価：A (83.3)	P 17
5. 生涯スポーツの普及		
生涯スポーツの普及	総合評価：A (87.5)	P 19
スポーツ施設の整備	総合評価：A (87.5)	P 20
主体的な活動の促進	総合評価：A (87.5)	P 21
6. 芸術・文化の振興		
芸術文化活動の推進	総合評価：A (100)	P 22
活動組織、指導者の育成	総合評価：B (75.0)	P 22
7. 文化財と伝統芸能の継承		
文化財の保存・活用	総合評価：B (75.0)	P 24
伝統芸能の継承	総合評価：B (75.0)	P 24

評価方法

各事業評価の数値化 a = 100 b = 75 c = 50 d = 25

各項目の評価基準 A = 100～81 B = 80～61 C = 60～41 D = 40 以下

各事業の評価を数値化し、その平均値を上記の評価基準に基づいた総合評価を行った。

(小数点第2位以下切り捨て)

1. 学校教育環境の整備

教育方針の計画的な展開

総合評価：A (100)

施策のねらい

田上町の教育方針の理解推進を図り、教育方針に沿った学校運営、教育活動を展開する

(1) 「田上の12か年教育」の理念継承

評価：a

【事業の概要】

「田上の12か年教育」の理念と取組を園・学校・地域が共有し合って、互いの役割を担いながら田上の子どもの教育にあたる。

【成果】

平成22年度から28年度までを中間評価した。結果から一層の充実に向けて取り組むべき重点事項などをグランドデザインにして幼・小・中の全教職員に配付し、「田上の子は田上で育てる」ために互いが担い合う役割の共有を図った。管理職は園校運営に「田上の12か年教育」の理念を反映させ、教職員の努力と創意の具体的な指針とすることができた。

【課題・意見】

学校の説明努力によって、保護者・地域から一層の共感的な理解と支援をいただけるようにしたい。「田上の12か年教育」に係る保護者、地域からの要望や意見を集約し、反映させたい。

(2) キャリア教育の推進

評価：a

【事業の概要】

田上の子どもが田上で多くの人と関わり、多様な経験を積んでいく活動を通して、「夢に向かう力」、「課題を捉え解決する力」、「自分の良さの可能性を見付け発揮する力」、「よい人間関係を構築する力」、「田上への愛着心」を育む。

【成果】

町内の商工業者やPTA、学校関係者、教育委員会等で組織する「田上町キャリア教育推進協議会」を設置し、幼・小・中学校及び地域、産業界からの参加を得て、一貫したキャリア教育を展開した。

田上小学校の「田上の伝統文化」、羽生田小学校の「竹プロジェクト」、田上中学校の「田上町ひと肌脱ぎ隊大作戦」、「職場体験学習」、教育委員会の「夏まつりボランティア」など、町を学ぶ活動が定着してきた。また、小中学生が合同で、共通の成長目標である「田上っ子宣言」を作成しオール田上で取り組むことにした。

【課題・意見】

小中学生と地域の方々が接する機会が多くなった。子ども達が自ら作成した「田上っ子宣言」を活用するための方策を検討する必要がある。

(3) 学習指導要領の徹底

評価：a

【事業の概要】

学習指導要領の趣旨を徹底するとともに、その目標を達成できるよう幼児園、小学校、

中学校が連携して取り組む体制を構築する。

【成 果】

次期学習指導要領との円滑な接続と子どもの学習嫌いをつくりたくないために、園長と小学校教諭2名で検討会を組織化して外国語活動と外国語の指導について検討した。田上版CAN-DOリストなどを整備し、3歳児から英語を学ぶ「田上の12か年英語教育」を実施できることになった。

【課題・意見】

「英語嫌いをつくりたくない」、「誰でもできる英語指導」、「『自分の英語が伝わった』といった成功体験」などを大切にして、「田上の12か年英語教育」を充実させていく。

家庭や地域との連携

総合評価：A (85.0)

施策のねらい

家庭、地域、学校が連携することにより、町全体で子どもを育む体制を構築するとともに、「開かれた学校」づくりを目指す

(1) コミュニティ・スクール

評価：a

【事業の概要】

「開かれた学校」から1歩前進し、地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を實現していくのかという目標やビジョンを保護者・地域の皆さんと共有し、地域と一体となって子どもたちを育む、「地域とともにある学校」を目指す。

【成 果】

平成29年4月1日に小中学校3校に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールをスタートした。学校地域コーディネーターを1名配置し、学校と地域が円滑に接する機会が増えるように努めた。

【課題・意見】

「地域とともにある学校」を目指し、制度の浸透・地域の理解を深めていくとともに、学校運営協議会委員への情報公開を進めていく必要がある。

(2) アウトメディア・ウィーク事業

評価：b

【事業の概要】

幼稚園年長児から中学校3年生までが在籍する全家庭を対象に、家庭での子どものメディア接触について、家族で考え、家族でルールを作り、家族で取り組むことを促す。

【成 果】

町養教部会と連携して、年3回実施した。メディア接触に伴う様々な問題や発達段階に応じた具体的な取組を保護者に周知した。70%弱の家庭から保護者アンケートの回答があり、「家族団欒の時間ができた」、「大人にも有益である」、「子どもは真剣に取り組んだ」といった肯定的受け止めが多かった。

【課題・意見】

放任傾向、無関心な保護者への働きかけが課題である。小中学生と保護者へのSNSに係る注意喚起が急務であり、メディア教育を学校と保護者の連携に位置付けたい。

(3) 夢ナビカルテ事業

評価：b

【事業の概要】

県教育委員会が推進する「夢ナビカルテ」を積極的に活用し、保護者が子どもの将来に対する関心を深め、「聞き上手」、「褒め上手」、「引き出し上手」になることを目指す。子どもは自己実現に取り組み、成功体験を積み重ねていくことを目指す。

【成果】

小中学生が学校での学習を夢ナビカルテに整理して自宅に持ち帰り、家族との話し合いに活用した。子ども、保護者、担任の各記述から、家庭内対話の充実はキャリア教育に有効であると評価している。

【課題・意見】

対話が成立しにくい家庭が存在している。授業と家庭内対話を連携させるための資料を作成して、各家庭で活用できるようにしたい。

(4) 田上夏まつり運営サポートスタッフ事業

評価：a

【事業の概要】

小中学生が田上夏まつりに運営サポートスタッフとして参画することで、自己有用感を高めるとともに、地域との多様な関わりをもつ機会を提供する。

【成果】

小学生 25 人、中学生 37 人の参加申し込みがあったが、当日雨天のため、小学生の部は中止とした。雨の中、中学生は会場の設営準備、イベント運営補助や販売補助を行い、夏まつり実行委員会から高い評価を得た。

【課題・意見】

定員を大幅に超える中学生の申し込みがあった。活動の趣旨からなるべく多くの生徒から参加をしてほしいが、予算との兼ね合いもあるので検討が必要である。

(5) 小中合同あいさつ運動

評価：b

【事業の概要】

小中学生合同で学校や駅前であいさつ運動を展開し、あいさつを通じて社会性を育む。

【成果】

駅前でのあいさつ運動は、児童生徒の移動に要する手段・時間的な確保が難しく開催することができなかったが、小中学生合同での小学校玄関前であいさつ運動及び中学校玄関前で中学生単独のあいさつ運動を開催した。

【課題・意見】

田上町の特色ある取組としたかったが、子ども達の安全を考慮し、各学校玄関前でのあいさつ運動となったものの、3校が同じタイミングで開催した。

教育環境の整備

総合評価：A (85.0)

施策のねらい

教育環境の整備を行うことで、円滑な学校運営、学びの環境を確保する

(1) スクールバスの運営

評価： a

【事業の概要】

通学距離等の理由により、通学が困難な児童生徒の通学時間の短縮・通学時の安全確保を図る。

【成果】

小中学校にマイクロバスを各2台配置。田上小学校 88 人、羽生田小学校 71 人、田上中学校 39 人が利用した（マイクロバス利用申請者数）。登下校の送迎の他、校外学習での移動、公民館事業やスポーツ少年団の事業においても運行した。また、教員の人権研修や町のイベントにも運行を許可し有効利用を図った。

【課題・成果】

大雪の場合、運行に遅延が生じるが、そのバスの所在地を把握する方法がなく、長時間外で待機する児童が発生した。

(2) 児童クラブの運営

評価： b

【事業の概要】

小学校1年生から6年生を対象に、希望する児童に放課後保育を実施する。

【成果】

開設日数は、田上小学校 291 日（平日 205 日、土曜・長期休業 86 日）、羽生田小学校 291 日（平日 205 日、土曜・長期休業 86 日）。利用者は次表のとおり。

	登録者数	延べ利用者数		
		平日	長期休業・土曜日	計
田上小学校	82 人	4,077 人	1,277 人	5,354 人
羽生田小学校	71 人	3,472 人	900 人	4,372 人
合計	153 人	7,549 人	2,177 人	9,726 人

【課題・意見】

平日の児童クラブは両小学校に開設しているが、当初から児童クラブの利用を想定した施設ではないため利便性が悪い。また、土曜・長期休業時に開設している原ヶ崎交流センターが使用できなくなるため、31 年度中に代替施設へ移動する必要がある。

32 年度から「放課後児童支援員」を2人以上配置することが義務付けられているため、研修会への参加を促すなど支援員の確保が必要。また、補助員の研修の機会を設ける必要がある。

(3) 学校給食費補助事業

評価： a

【事業の概要】

食味のよい地元産コシヒカリを用いた米飯給食の普及定着と、米消費拡大、給食費の保護者負担の軽減に努める。また、地元農家や JA と協力して地元産食材を中心とした献立を展開する。

【成果】

993 千円を補助し地元産コシヒカリの米飯給食を提供した。また、地元産の食材を給食に使用できるように納品組合と協力して取り組んだ。

【課題・意見】

田上町での旬の時期をはずれると、生産量や品質等が安定しないことがある。

(4) 学校施設の計画的な改修

評価： b

【事業の概要】

学校施設等の維持管理のための計画策定と改修を行う。

【成果】

田上中学校屋内消火栓配管工事 3,308,040 円、給食センタートイレ改修工事 885,600 円、羽生田小学校自動火災報知機受信機取替修繕 1,382,400 円、田上中学校浄化槽破碎機及びスクリーン取替修繕 1,857,600 円など、施設及び備品等の修繕を行った。

【課題・意見】

各学校とも築30年以上が経過し老朽化が進んでいる。長期的な展望に立ち、長寿命化計画等を策定していく必要がある。また、近年の夏季における高温に対処するためには、空調設備の整備をしていく必要がある。

(5) 教育教材等の計画的な整備

評価： b

【事業の成果】

教育用コンピュータをはじめとした教育教材等を計画的に整備し、教育環境の向上を図る。

【成果】

児童用タブレット 40 台、生徒用ノートPC 40 台、教職員用PC 68 台、電子黒板等、教育用コンピュータ、校務用コンピュータを導入。ICT支援員を確保し、教職員に有効活用してもらえるような環境を整備した。また、平成32年度から始まるプログラミング教育に備え、国の事業と連携しプログラミングの公開授業を実施した。

【課題・意見】

平成32年度から始まるプログラミング教育やアクティブ・ラーニングに有効利用できるようハードとソフトの整備を図る必要がある。

2.教育内容の充実

学ぶ意欲と確かな学力の向上

総合評価：A (85.0)

施策のねらい

- ・ 学力の向上
- ・ 教職員の指導力の向上

(1) 学校指導主事の配置

評価：a

【事業の概要】

学校運営に係る適切な指導助言、就学指導等にあたる。

【成果】

全国学力・学習状況調査やNRT検査から、小学校と中学校ともに学力向上を確認できる。「自分の授業改善を自分でつくる」をねらいとする町研修と学力向上の資料提供が効果的であった。きめ細かな就学指導で、その子に応じた進学と学校の対応ができた。

【課題・意見】

「志をもって意欲的に学ぶ田上の子を育成するシステム」として田上の12か年教育が機能できるように、点検、評価、改善のサイクルに基づく連携にしていきたい。

(2) 園・校長面談

評価：b

【事業の概要】

各園学校の運営方針とグランドデザインに基づいて学校評価、進捗状況を確認し指導する。

【成果】

各園校長と人事や多忙化などを含めた各園校の課題とその解決のプロセスを確認し合うだけでなく、幼小中連携に係る改善についても共有し合えるので有益である。

【課題・意見】

「田上の12か年教育」との関連付けを図っていく必要がある。

(3) 田上町教育研究協議会支援

評価：a

【事業の概要】

幼稚園、小中学校の教職員の連携による「田上の12か年教育」の充実に取り組む研修、活動費用を支援する。

【成果】

一斉研修に「田上の12か年教育」を理解し合う場を設けていただいた。転入職員にも有益である。「外国語活動、外国語」「プログラミング教育」「アクティブ・ラーニング」に係る資料を提供し、幼小中の立場で今から準備することなどを理解し合う機会にした。

【課題・意見】

毎年、田上町グランドデザインを更新して、一人一人の「選択と集中」事項を示し、効率的で実効性ある「田上の12か年教育」に改善していく。

(4) N R T 検査

評価：b

【事業の概要】

小中学校において、客観性の高いN R T 検査（標準学力検査／集団基準準拠検査）を実施し、学力定着状況を把握して授業改善に活用する。

【成 果】

小学校1年生から中学校3年生までの実態を把握することができ、その結果を基に各校長と情報を共有し、指導の改善に反映させた。

【課題・意見】

「小学校ではこの段階まで育成し中学校につなぐ」という連携の仕組みを構築し、一層の成果向上を図りたい。

(5) W e b 検査

評価：b

【事業の概要】

県教育委員会のW e b 配信システムに参加して、単元ごとの定着状況をきめ細かく把握し、授業改善に活用する。

【成 果】

毎月の学年別の結果と問題別正答率などを学校別に作成して、各学校に情報提供した。

【課題・意見】

検査結果を学校運営や学習指導の改善につないで、特色ある学習指導に活用できるようにしたい。

創意工夫を生かした教育活動の充実

総合評価：A (81.2)

施策のねらい

- ・ 郷土愛を育む教育活動の展開
- ・ 国際化、情報化に対応した教育の推進
- ・ 創意工夫を生かした教育活動の充実

(1) 総合学習事業

評価：b

【事業の概要】

地域の協力を得ながら、各校の総合的な学習の時間における町内での多様な活動を支援する。

【成 果】

学校地域コーディネーターを1名配置し、学校と地域が円滑に接する機会が増えるように努めた。田上小学校の「伝統文化学習」、羽生田小学校の「竹プロジェクト」、田上中学校の「ひと肌脱ぎ隊」活動など、特色ある活動が推進された。

【課題・意見】

活動を通して子どもと町民のつながりを一層高めていくことが必要である。

(2) 学校図書司書の配置

評価：a

【事業の概要】

各学校図書館の環境整備、調べ学習支援、読み聞かせなど、児童生徒が図書に触れる機会やつながりを向上させる。

【成果】

各学校に毎月約15時間、図書司書を配置し、図書整理や選書作業を行った。

【課題・意見】

月15時間程度の配置では、業務量に限りがあるため、担当の教職員と連携しながら図書環境の整備を進めていく必要がある。

(3) A L T 配置

評価：b

【事業の概要】

外国語活動並びに英語指導を補助し、国際理解の推進と英語教育の推進を図る。

【成果】

2人のA L Tを幼稚園、小中学校に配置し、3歳児から中学校3年生までの子ども達が英語に触れる機会をつくった。

【課題・意見】

次期学習指導要領の実施に向けて、英語教育の充実に向けた準備を進めることが課題となる。

(4) 大学連携事業

評価：b

【事業の概要】

新潟経営大学、新潟薬科大学、新潟中央短期大学と連携し、各大学の教育資源を町の教育に活用する。

【成果】

理科支援員、児童クラブの運営補助、公民館ボランティアスタッフ、幼稚園の学生支援スタッフなど、多様な機会に協力をいただいた。

【課題・意見】

次期学習指導要領の実施に向けて連携を充実していく必要がある。相互に支え合う仕組みづくり、win-winな関係を向上させていく。

次期学習指導要領の実施に向けて連携をさらに充実していく必要がある。

いじめ、不登校に対応した指導体制

総合評価：A (91.6)

施策のねらい

- ・ いじめ撲滅の取組
- ・ 人権教育の展開
- ・ 相談員の配置

(1) いじめ見逃しゼロスクール事業

評価：a

【事業の概要】

小中学生が一緒になり「いじめ」について考え行動することにより、いじめ撲滅、人権教育の推進を図る。

【成果】

中学生は小学生の規範に、小学生は中学生を目標にすることができた。保護者や町関係者も加わって、小中学生がSNSの使い方やよい人間関係づくりについて学ぶことができた。「田上町あたたかカルタ」の活用も図られた。

【課題・意見】

保護者や地域の関心を一層高めて、横軸の連携を充実させることが課題である。

(2) 人権教育、同和教育の推進

評価：b

【事業の概要】

町教職員の人権教育への知識や関心を向上させる。

【成果】

町教職員を対象に年2回の人権教育、同和教育に係る研修を開催。差別の実態を身近に感じるための現地研修会の際にスクールバスを運行し支援した。また、公民館事業では、人権をテーマにした講座を3回開催。学習の機会を提供した。

【課題・意見】

人権、同和問題への正しい理解を一層推進し、差別の根絶を目指す必要がある。

(3) 訪問相談員配置

評価：a

【事業の概要】

問題を抱える幼児児童生徒やその保護者を対象に、家庭訪問を行い、相談を通して問題の解決を図る。

【成果】

週3日間、訪問相談員を配置し、家庭訪問相談84回、ケース会議42回を実施。小中学校における不登校、虐待、障害など、問題を抱える児童生徒や保護者への相談業務、学校への指導、児童相談所との連携等を行った。

【課題・意見】

問題解決までの状況把握や保護者理解、時間を問わずに行われる相談への対応など、限られた勤務時間の中での対応、調整が課題となっている。家庭の抱える課題が多様化、複雑化しているため、関係機関と連携し継続した対応が必要である。

特別支援教育の充実

総合評価：A (100)

施策のねらい

- ・ 就学相談、教育相談の実施
- ・ 介助員を配置し学習支援、生活支援
- ・ 不登校児童生徒の自学級への復帰支援

(1) 教育支援委員会運営事業

評価：a

【事業の概要】

障害のある子どもたちの障害の状態、教育ニーズ、保護者の意見、医学・心理学等専門的見地からの意見等を踏まえ、その子どもに適した就学先を決定していくため、教育相談や就学相談を行う。

【成果】

特別支援コーディネーター1名を幼稚園に配置し、年4回の連絡部会を開催している。4歳児から気になる園児の情報交換、行動観察による子ども理解、保護者との個別相談に取り組んだ。

【課題・意見】

共生社会の形成に向けた「インクルーシブ教育」の重要性が叫ばれるなか、適切な就学・配慮が行えるよう、幼稚園、小中学校、教育委員会が連携し、情報共有する体制づくりが必要。

(2) 介助員配置事業

評価：a

【事業の概要】

特別な支援を必要とする児童生徒の身辺介助や安全確保、教育支援等を行う。

【成果】

田上小学校4人、羽生田小学校3人、田上中学校1人、計8人を配置。一人ひとりの状況に応じた学習支援、生活支援を行った。

【課題・意見】

一人ひとりに求められる支援は多様化しており、支援を要する児童生徒の割合は増加傾向にある。

(3) 適応指導教室

評価：a

【事業の概要】

不登校等の児童生徒に対し必要な学習・教育支援を行う。

【成果】

指導員1名を配置し、学習支援を行った。

【課題・意見】

指導員と教職員が児童生徒の情報を共有し、連携した支援が行えるよう体制を整える必要がある。

3.生涯学習の条件整備

生涯学習推進体制の強化

総合評価：A (87.5)

施策のねらい

- ・ 学習情報の提供
- ・ 生涯学習の体制づくり
- ・ 学習成果を生かせるシステム確立

(1) 生涯学習情報の発行事業

評価：a

【事業の概要】

公民館主催事業の情報を掲載した生涯学習情報を発行する。

【成果】

毎月1回、町内全世帯に配布し、生涯学習事業の周知、参加促進を図ることができた。

【課題・意見】

見せ方を工夫し、わかりやすく見やすい紙面を目指した。また、受贈図書広報に力を入れている他、地区の生涯学習活動のための講師派遣等の情報も掲載した。

(2) ホームページによる情報発信

評価：a

【事業の概要】

生涯学習に係る情報を町のホームページに掲載し情報発信する。

【成果】

町のホームページに生涯学習情報を毎月の発行日に合わせて掲載した。また、駅伝大会参加者募集と結果報告、成人式要項と実施報告を掲載するなど、電子媒体を活用した生涯学習事業の周知、参加促進を図ることができた。

【課題・意見】

より見やすいページ作成を心掛ける。

(3) 地区公民館活動補助事業

評価：b

【事業の概要】

地区公民館が行う生涯学習活動を推進するため、その活動に要する経費の一部を補助し、地区の活性化と生涯学習を支援する。

【成果】

23地区に1,441,000円を補助。子ども会活動事業分では、6地区に122,722円を補助し、生涯学習活動を推進した。

【課題・意見】

申請のなかった地区もあるため、より多くの地区で事業が実施されるよう今後も周知していく必要がある。

(4) 研修参加による職員の資質向上

評価：b

【事業の概要】

生涯学習事業等の企画立案から運営まで行える職員の育成を図るため各種研修会に参加する。

【成果】

公民館研究大会、同和教育研修会等、各種研修会に参加したほか、中越地区社会体育総合研修会兼四市南・西蒲ブロック研修会を田上町で計画、開催した。

【課題・意見】

研修会等への参加はしているが、施策推進における組織的なマネジメントの強化、職員の資質向上が必要である。

指導者・指導体制の充実

総合評価：C (50.0)

施策のねらい

- ・ 多様化、高度化する学習要求に対応できる指導体制の確立
- ・ 地域における指導者の発掘と指導者の育成、資質の向上

(1) 生涯学習地区推進員の活用

評価：d

【事業の概要】

各地区に生涯学習推進員を委嘱し、各地区の公民館等を拠点に生涯学習活動への意欲向上、活動援助等を行う。

【成果】

生涯学習推進員を計43名委嘱し、各地区における生涯学習事業の推進に努めた。

【課題・意見】

29年度は日程調整がつかず会議が開催できなかった。制度内容の周知や活動事例などの説明を行なっていく必要がある。

(2) 生涯学習ボランティア養成講座

評価：b

【事業の概要】

生涯学習に係るボランティアを育成するため、企画から運営までのスキルアップ講座を行う。

【成果】

生涯学習ボランティア養成講座という形では実施できなかったが、妙高青少年研修やゆうゆう教室などの青少年教育事業においてボランティアを募集し、各事業に必要な研修を実施した。

【課題・意見】

事業の中心となって活躍できる人材育成の第1歩として、まず事業の導入部分で使えるアイスブレイク等の初歩的な内容を学ぶことに特化した研修の機会が必要であると感じている。

施策のねらい
 ・ 学習環境の整備

(1) 田上町交流会館の建設

評価：a

【事業の概要】

老朽化した町公民館の代替施設及びまちづくりの拠点整備として、田上町交流会館、田上町地域学習センターを建設する。

【成果】

平成30年1月17日、田上町交流会館建設工事の契約を締結。契約額、契約先は次のとおり。

工事名	契約先	契約額
建築本体工事	本間・堀内・中越大栄特定共同企業体	6億1,668万円
電気設備工事	本間・志田・滝沢特定共同企業体	2億5,488万円
機械設備工事	アキラ・武田・ワタセイ特定共同企業体	1億9,332万円

【課題・意見】

道の駅整備の主管課が総務課に移管されたが、建物の仕様検討、設置条例整備等については引き続き主体的に取り組んでいく必要がある。

(2) 田上町地域学習センターの整備

評価：a

【事業の概要】

田上町交流会館と合わせ生涯学習及びまちづくりの拠点整備を行うため、地域学習センターを改修するための準備を行う。

【成果】

地質調査、耐震診断、補強・改修及び増築基本設計を実施した。

【課題・意見】

実施設計を行うとともに、運営方法等について検討していく必要がある。

4.主体的な学習活動の支援

学習機会の充実

総合評価：A (86.3)

施策のねらい

- ・ 各年齢層における学習ニーズに対応した講座、教室の開催
- ・ 多様化する現代的課題に向けた学習機会の提供
- ・ 郷土の理解を深める各種講座、教室の開催

(1) ゆうゆう教室

評価：a

【事業の概要】

レクリエーション、自然体験、創作活動等を通じ、楽しむことの中から子ども達の自主性や協調性、創造性及び豊かな情操を育む。

【成果】

29年度より登録制を廃止し小学生全員に案内を配布するようにしたところ、これまで参加したことのない子どもたちからも申込みがあり、結果として開催回数11回で延べ参加者数326人が参加した。新潟経営大学及び新潟中央短期大学の学生が運営補助として事業に参加していただき、幅広い年齢層の交流が行うことができた。

【課題・意見】

事業のPR方法の工夫と、高学年向きプログラムによる高学年生の参加増を促す必要がある。

(2) 夏休み妙高青少年研修

評価：a

【事業の概要】

自然体験や集団体験を通して生きる力を育むとともに、地域活動等でリーダーとして活動できる青少年の育成を図る。

【成果】

小・中学生15人、学生スタッフ8人が参加。参加者同士の新たな人間関係を構築し、助け合い、励まし合いながら自分の役割を探し、実行させることができた。

【課題・意見】

各学校の行事日程と重複した関係で参加者に偏りが出てしまったので、開催日や内容を十分に検討した後、募集を行う必要がある。

(3) 子ども夏休み教室

評価：b

【事業の概要】

遊びや伝統文化、生活、自然の中での体験により、心身の健やかな成長をもたらす学習機会を提供する。

【成果】

「新潟県立自然科学館見学」、「ニジマスつかみ取りにチャレンジ!」という2つのプログラムを計画したが、科学館見学は大型台風5号の接近により中止した。つかみ取りには50人が参加した。

【課題・意見】

つかみ取りでは、打ち合わせ不足により予定どおりの進行ができなかった。スタッフの役割分担を明確にして、よりスムーズな運営を心掛けたい。夏休みを活用し、普段は体験できないプログラムを提供していきたい。

(4) 大人のためのゼミナール

評価：a

【事業の概要】

主に成人向けの各種教室（講座）を開催し、青年、壮年層の生涯学習参加へのきっかけづくりとする。また、生涯学習指導者の発掘の場とする。

【成果】

トレッキング、甚句太鼓講習会、スローフード、ハーブ講座、ボイストレーニング、パソコン講座、という6つのテーマで計26回開催し、延べ340人が参加した。ハーブ講座の人气が高く、同じ内容を複数回開催してほしいと要望があった。

【課題・意見】

より幅広いニーズに対応していくとともにマンネリ化を防ぐため、多様な学習テーマの新規事業に取り組んでいく必要がある。

(5) 生涯学習行政出前講座

評価：b

【事業の概要】

町が重点的に取り組んでいる施策や暮らしに身近なテーマなどを用意し、職員が出向き直接町民に説明、意見交換することにより、町政への関心を深めるとともに、生涯学習意識の啓発と行政の活性化を図る。

【成果】

高齢者の福祉制度について（保健福祉課）をテーマに1回開催、13人が参加した。

【課題・意見】

今後も事業を継続していくとともに、より認知度を上げるべく町民への周知を行っていく。

(6) ストレッチ教室

評価：a

【事業の概要】

家庭でも気軽にできる体操を通して、日常生活に運動を取り入れ、健康増進、体力向上を図る。

【成果】

開催回数21回、延べ570人が参加した。健康づくり教室として定着している。

【課題・意見】

今後も継続し、町民の健康づくりを支援する。

(7) 早朝ハイキング

評価：b

【事業の概要】

朝の清々しい空気を吸いながら護摩堂山を登り、頂上でラジオ体操を行うなど交流を深める。納会では皆勤賞、精勤賞を表彰する。

【成 果】

計7回実施し、延べ179人が参加。皆勤賞12人、精勤賞7人を表彰した。

【課題・意見】

今後も継続し、町民の健康づくりを支援する。参加者が減少傾向にあるため、創意工夫をしていく必要がある。

(8) 囲碁将棋大会

評価：b

【事業の概要】

囲碁将棋を通じ参加者同士の交流、親睦を深める。

【成 果】

囲碁の部15人、将棋の部10人、計25人が参加した。

【課題・意見】

囲碁、将棋の普及、町民のコミュニケーションの場として機能している。今後も継続していきたい。参加者が減少傾向にあるため、創意工夫をしていく必要がある。

(9) ふるさと歴史講座

評価：b

【事業の概要】

田上町、その他の歴史と文化について学習し、郷土意識を高める。

【成 果】

「障がい者・病者への差別」、「(人権・同和教育) 順光からは見えぬ景色～賤民史を中心に～」と題して2回開催し、計29人が参加した。

【課題・意見】

例年がない、且つ内容の濃い講座を開催できた。今後も参加者増を意識してPRにより力を入れたい。

(10) 人権講座

評価：b

【事業の概要】

差別問題を始めとする人権問題に対する正しい理解と認識を深め、人権感覚の育成を図る。

【成 果】

「子どもの権利の歴史的変遷と日本の現状～子どもの権利条約を中心に～」と題して1回開催し、6人が参加した。

【課題・意見】

PR不足からか、参加者があまり集まらなかった。また、法律の話など参加者にとってはかなり難しい内容に触れる部分もあったため、今後は講師とより綿密に打合せ、講義を聴く参加者へ配慮した事業づくりを心掛けたい。

(11) 家庭教育セミナー

評価：b

【事業の概要】

子どもの心理や心身の成長に伴う親の役割、関わり等について学ぶ機会を提供し、家

庭での教育力の向上を図るとともに、家庭教育の重要性について認識を深める。

【成 果】

子育て支援センターを会場に、「音楽のある子育て」と題し、講師には現在四児の母でもあるシンガーソングライター樋宮美希さんを迎えて実施した結果、親子37人が参加した。

【課題・意見】

ここ数年実施していなかった事業を復活させる形での開催であったので、今後も継続して実施していきたい。

主体的な活動への支援

総合評価：A (83.3)

施策のねらい

- ・ 指導者の養成
- ・ 自主的なグループ活動の支援

(1) 体験活動支援センター

評価：b

【事業の概要】

地区やPTA、個人の生涯学習活動及び体験活動を支援するため、情報の収集と提供を行う。

【成 果】

田上甚句講習、地区行事など計11件の相談があった。

【課題・意見】

相談件数が少ない。相談に対応できるよう職員の資質向上を図るとともに、周知活動により知名度を高めていく必要がある。

(2) 各種サークル活動の育成

評価：b

【事業の概要】

公民館等で活動するサークルの相談や情報発信などの支援を行う。

【成 果】

生涯学習情報を活用し、参加者募集やサークル開催日等の情報発信を行うとともに、サークルからの相談に応じたほか、公民館事業（ボイストレーニング教室）から新たな自主サークル立上げに向けた支援にも取り組んだ。

【課題・意見】

文化協会加盟団体数が減少するとともに、主体的にサークルを結成しようという動きも少なくなっている。

(3) 成人式

評価：a

【事業の概要】

新成人を祝うと同時に、大人としての自覚を高めてもらう。

【成 果】

新成人による実行委員会を組織し、式典の企画運営を行った。新成人としての自覚を促すため、主体的に町の事業に関われるように配慮したことにより、新成人による第2部の司会や思い出写真のスライドショーを開催することができた。

【課題・意見】

成人式対象者120名に対し、84名が出席した（出席率70%）。実行委員会を組織したことにより、普段関わりの少ない青年層が公民館事業に関わり主体的に活動できたことは評価できる。

5.生涯スポーツの推進

生涯スポーツの普及

総合評価：A (87.5)

施策のねらい

- ・ 誰もが気軽に楽しめるような体制づくり並びにニュースポーツの普及
- ・ スポーツの正しい知識や技術、マナー習得ができる各種教室の開催
- ・ スポーツ振興を促進するための指導者の育成、研修会等の実施

(1) 田上町スポーツ協会との連携と支援

評価：b

【事業の概要】

体育協会、スポーツ少年団、スポーツクラブが合併し結成された田上町スポーツ協会と連携し、生涯スポーツの普及を図る。

【成果】

昨年度に引き続き各種大会や教室の運営を委託する「各種大会等委託契約」を締結。立上げから2年目を迎え、各種事業の準備や運営方法も引継ぎがほぼ完了した。

【課題・意見】

田上町スポーツ協会内部における財政・人材等においてはまだ少なからず課題が残っている。引継ぎは概ね済んだとはいえ、今後もスポーツ協会への支援を行うとともに、連携体制を密にしていく必要がある。

(2) 佐藤杯争奪町内駅伝競走大会

評価：a

【事業の概要】

青少年のスポーツ振興を図るため、郷土の生んだマラソン界の権威である佐藤秀三郎氏より優勝杯が贈られた。その争奪戦として、並びに町内の青少年の体力・精神力の向上を目的に開催する。

【成果】

学校行事と重なり中学生チームの参加が少なかったが、計21チームがエントリーした。町スポーツ協会、スポーツ推進員等の協力もあり、円滑に大会を開催することができた。

【課題・意見】

中学生チームの参加や、ボランティアの協力など、中高生の活躍の場ともなっているので、学校行事との重複を避けた日程調整を行いたい。

(3) 田上町スキー教室

評価：b

【事業の概要】

スキー技術の習得・向上とともに、スキーの楽しさや冬山の自然体験を通じて、町民相互の交流を促進する。

【成果】

計12人が参加。昨年度比で2人増加となったが、依然として参加者が少ない状況であった。

【課題・意見】

スキー人口減少という社会的動向もあるが、参加者が少ない状況が続いている。特に

小・中学生の人数がなかなか増えないため、PR 方法の工夫やより魅力のある事業づくりを意識する意味でも、ウインタースポーツ全般に視野を広げて検討していく必要がある。

(4) スポーツ推進委員主導による生涯スポーツの普及 評価：a

【事業の概要】

スポーツ振興を促進するための指導者育成、研修会等を実施する。

【成果】

「中越地区社会体育総合研修会兼四市南・西蒲ブロック研修会」の開催地となった。スポーツ推進委員による企画会議を重ね、「田上ならではのプログラム」として、「セルフコンディショニング&トレーニング」及び「護摩堂山ハイキング」という2種の実技研修（選択制）を実施した。

【課題・意見】

委員の定員には達していないため、人材確保が必須である。

スポーツ施設の整備

総合評価：A (87.5)

施策のねらい

- ・ 各種体育施設の整備充実
- ・ 学校体育施設の有効活用、管理運営体制の確立

(1) 体育施設の維持管理 評価：b

【事業の概要】

各体育施設の適正な維持管理を行う。

【成果】

護摩堂テニスコート支柱取替工事（421,200 円）をはじめ、各施設の維持管理に努めた。

【課題・意見】

施設の老朽化に伴い、日常的な点検や計画的な修繕、管理を行う必要がある。

(2) 学校開放事業 評価：a

【事業の概要】

夜間、休日等に社会体育施設の補完施設として、小中学校の体育施設を一般団体へ貸し出すことで生涯学習、スポーツの推進を図る。

【成果】

小中学校の体育館、中学校の武道場について学校開放を行った。各施設とも飽和状態となっているが、団体間で調整して利用している。

【課題・意見】

今後、利用団体が増加した場合、抽選等を検討する必要がある。

施策のねらい

- ・ 田上町スポーツ協会を中心とした各団体の育成強化と競技力向上
- ・ 生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現及び多様なニーズへの対応
- ・ スポーツに対する認識の高揚

(1) 全国大会出場者への褒賞制度

評価：a

【事業の概要】

スポーツ・文化を通じて、町の代表若しくは団体の代表として各種競技会に参加、または審査会、発表会等で優秀な成績を収めた町民を褒賞する。

【成 果】

様々な競技大会、コンクールに出場した町民延べ28人に、280,000円を授与した。

【課題・意見】

制度の周知を行い、申請忘れを防いでいく必要がある。

(2) 田上町スポーツ協会との連携と支援（再掲）

評価：b

【事業の概要】

体育協会、スポーツ少年団、スポーツクラブが合併し結成された田上町スポーツ協会と連携し、生涯スポーツの普及を図る。

【成 果】

昨年度に引き続き各種大会や教室の運営を委託する「各種大会等委託契約」を締結。立上げから2年目を迎え、各種事業の準備や運営方法も引継ぎがほぼ完了した。

【課題・意見】

田上町スポーツ協会内部における財政・人材等においてはまだ少なからず課題が残っている。引継ぎは概ね済んだとはいえ、今後もスポーツ協会への支援を行うとともに、連携体制を密にしていく必要がある。

6.芸術・文化の振興

芸術文化活動の推進

総合評価：A (100)

施策のねらい

- ・ 各種団体などに日頃の活動成果を発表する機会の提供
- ・ 優れた芸術文化を鑑賞する機会の提供
- ・ 各種開催情報の提供、活動への参加促進

(1) 文化祭の開催

評価：a

【事業の概要】

美術及び芸能を愛好する町民の創作を発表する場であると同時に、日常生活の中で芸術文化に親しむ心を養う。

【成果】

- ・ 展示の部：作品数457点、出展者数304人、来場者数794人
- ・ 芸能の部：出演団体20団体（188人）、来場者数418人

【課題・意見】

文化協会自体の加入団体が減少しているため、協会からの作品数が減少傾向にある。

(2) ロビーコンサート等の音楽振興

評価：a

【事業の概要】

発表の機会をつくるとともに、芸術文化を鑑賞する機会を提供する。

【成果】

役場1階ロビーにてピアノ、声楽等のコンサートを年間計6回開催した。(出演者数延べ11人)

【課題・意見】

田上町交流会館建設後、施設を有効に活用することができるよう音楽団体の育成を行う必要がある。

活動組織、指導者の育成

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ 文化協会など各種団体との連携、協力体制の強化
- ・ 各種団体などの活動促進

(1) 芸術、文化に関する指導者、活動組織の育成

評価：b

【事業の概要】

公民館等で活動するサークルの相談や情報発信などの支援を行う。

【成 果】

生涯学習情報を活用し、参加者募集やサークル開催日等の情報発信を行うとともに、サークルからの相談に応じたほか、公民館事業（ボイストレーニング教室）から新たな自主サークル立上げに向けた支援にも取り組んだ。

【課題・意見】

文化協会加盟団体数が減少するとともに、主体的にサークルを結成しようという動きも少なくなっている。

（２） 文化協会への支援

評価： b

【事業の概要】

文化協会との連携、協力体制の強化。

【成 果】

文化協会の活動費の一部 215,980 円を補助した。また、文化協会だよりを連携して編集、発行した。

【課題・意見】

文化協会加盟団体が減少傾向となっている。団体の結成や支援をしていく必要がある。

7.文化財と伝統芸能の継承

文化財の保存・活用

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ 文化財や埋蔵文化財などの文化的遺産の啓発
- ・ 指定文化財所有者の協力による保存

(1) 指定文化財の管理助成

評価：b

【事業の概要】

指定文化財所有者の保存に対して、その費用の一部を助成する。

【成果】

国指定文化財：1件 10,000円
県指定文化財：1件 10,000円
町指定文化財：4件 20,000円
名木管理助成：7件 35,000円

【課題・意見】

指定文化財の看板が老朽化しており計画的な修繕・更新が必要。

(2) 文化財の一般公開

評価：b

【事業の概要】

文化財や埋蔵文化財などの文化的遺産の啓発。

【成果】

行屋崎遺跡出土品を役場ロビーに展示するとともに、県指定文化財の薬師如来坐像を文化祭で展示した。

【課題・意見】

町民への啓発につながるよう展示の機会を確保、積極的な啓発が必要である。

伝統芸能の継承

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ 各種保存団体との連携による伝統芸能の発表の場、PR活動の促進、後継者の育成支援

(1) 伝統芸能の保存のための支援と公開

評価：b

【事業の概要】

各種保存団体との連携による伝統芸能の発表の場の確保や後継者の育成支援を行う。

【成果】

田上甚句太鼓保存会により、講習会の開催や小学校からの依頼に応える形での指導を実施した。その他の伝統芸能については、地区単位で活動を行っていたようだが、連携や支援は充分に行えなかった。

【課題・意見】

各団体の活動状況の把握や映像による伝統芸能の保存が必要である。

(2) 小学校での伝統文化継承

評価：b

【事業の概要】

伝統芸能の伝承のため小学校と連携した伝承活動を展開する。

【成 果】

田上甚句については、小学校でのクラブ活動指導、運動会前の講習会、夏まつりでの小学生の発表支援を行った。

【課題・意見】

田上甚句については一定の取組が確保できているが、その他の伝統芸能（五社神社や川前地区の神楽舞）とはまだ連携構築が十分にできておらず、今後町としての支援も含め、検討する必要がある。